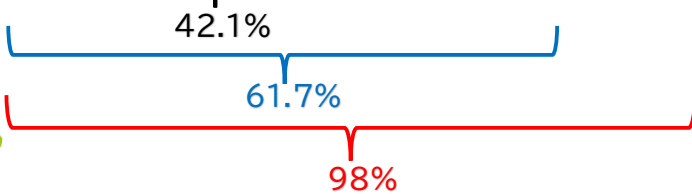


## 回数別米飯給食実施状況

令和3年度文部科学省学校給食実施状況調査（国公私立）令和3年5月1日現在

区分	週5回	週4.5回	週4回	週3.5回	週3回	週2.5回	週2回	月3回	計
学校数	5.0%	8.4%	28.7%	19.6%	36.3%	1.0%	0.9%	0.1%	100.0%



本市では、平成25年度に週間平均3.03回だった米飯給食を令和元年度に3,12回、**今年度からは3.25回**と増やしてはいますが、川越産米で賄える地域性や全国の状況を考えれば、まだ少ないと考えています。

## 学校給食会という組織



学校給食会とは、各都道府県で設立され、学校給食用物資（主に米、パン、牛乳）の供給等行っている機関です。これまで食材購入においてそのスケールメリットを生かし、安価で安定した供給で学校給食に貢献してきました。埼玉県学校給食会は、県内全域で主食及び牛乳の提供を行っており、平成24年には公益財団法人になっています。

本市でも、埼玉県学校給食会と委託契約を結び、米飯、パン、麺及び牛乳は市内の給食センターではなく、学校給食会から購入しています。（ご飯を給食センターで炊かず、購入していることはあまり知られていないのではないのでしょうか。）

しかしながら、学校給食会は自らで米飯やパンを製造しているわけではなく、それぞれを製造業者から購入しているに過ぎません。さらに言えば、配送も自前ではなく、別の業者に委託しているのが現状です。

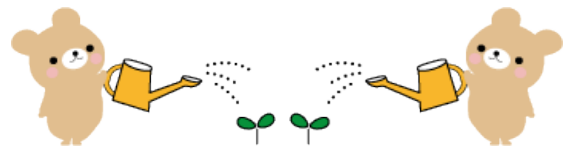


## 学校給食会を通さず、業者からの直接購入の検討を！

未だ多くの自治体で学校給食会を通した調達が行われていますが、福岡市では、2020年度から学校給食会との取引を止め、直接製造業者から購入する形にしました。アレルギーへの柔軟な対応や、年間5500万円の経費削減に繋がることを推計できたことが見直しの効果として挙げられ、製造業者との直接契約によって、学校現場のニーズに柔軟に対応できるようになったこともメリットとして挙げられていました。

川越市では、給食に使用のお米は100%川越産米を使用しております。これは、川越市専用の注文をし、専用でつくっていただいているということで、他の県内産米を使用した米飯とは異なることから、スケールメリットの恩恵を享受しにくく、配送も直接業者からされていることから、同じ業者と直接契約を結ぶ方が良いと考え、市の見解を問いました。

市は、「現在は検討していないが、**安定供給が可能な業者がある場合には、費用対効果や地産地消、食育の観点も勘案し、検討する必要があると考えている**」と答えました。



## 食育の現状及び課題の認識を問う

学校給食法において、食育の推進は2つある大きな柱の1つであり目的です（もう一つは児童生徒の健全な発達）。しかしながら、私は以前より本市の食育にかなりの不十分さを感じており、これまでも指摘を繰り返してきました。これまでは主な取り組みを聞くと、「小学校二年生を対象に、栄養士による食育指導を行っている」と答え、イベント開催が食育のメインになっている実態を感じさせ、「給食の時間は、食事のマナーや地域の産物などに触れる具体的な食育の学びの場である」との答弁は、私が「食べる時間すら確保できていない」と指摘する給食中に食育を行っていると言い続ける教育委員会との認識の差を浮き彫りにしていました。しかし今回、「全児童生徒の喫食時間が適切に確保されると」と、「全教職員が一体となって取り組める食に関する指導体制の充実を課題として挙げ、過去の答弁との違いを感じました。

## 専門的な知見を取り入れた全体計画の作成を提言

現状、食育に関する指導は、各校で作成する「食に関する全体計画」に基づいて取り組まれ、学校によっては栄養教諭などの知見が入れられた計画になっていませんでした。私の提言に対し、答弁では、教育委員会としても専門的な知見に基づいた全体計画を例示するなど、研究したいとの考えを示しました。



**市政についてや環境問題 これってな～に？わかりやすく教えて？にお答えします！**

〒350-8601 川越市元町1-3-1 川越市役所6F 無所属議員控え室

TEL 080-3025-5776 FAX 049-227-3810 E-mail kawaguchi-keisuke@outlook.com